

ピアホームだより

2017. 5. 10

第43回交流会の報告

4月23日(日)、顧問白石先生主催の交流会に参加して来ました。年2回のペースで開催して来ましたから、20年以上続けて来たこととなります。

私は会が始まって5~6年経過した頃から参加して来たことになるのと思いますので、17~18年の関わりになるのでしょうか？参加されていた親御さんも高齢になり去っていった方も多いのですが(どうされているのでしょうか?)、また、新たな方の参加が加わり、新しいお顔も多くみられるようになりました。

今回は、午後の講演を白石先生ご自身がお話しされました。事前に準備されていた原稿を午前の質問に合わせ、臨機応変に変えられたことです。それだけに、日々困っていることに対する緻密で的確な示唆を頂ける講演になったと思います。

親や支援者が出くわす困った症状にどう対処するのがいいのか？つまりは病気(統合失調症)の症状とは何なのか？ということを読み明かしたものだと思っています。

症状とは？

統合失調症の1級症状と言われるものがありますが、これはどうして起こっているか解っているとは言えません。現在の医学では抗精神病薬で対処することになります。しかし、その根底にある症状に起因して患者を苦しめる症状があり患者はそれに対して防御反応を示していることが往々にしてあります。

私たちは目に付く言動を「症状」と捉えやすいのですが、これらは2次的に生じている場合があります。本人が意識的に行っている行動もあります。

精神症状への対処

元の症状は原因不明であり、お薬が主な方法になりますが、2次症状は、本人が自分で別の対処方法を実施できるようにすることが対策になります。

間違った防衛行動(習慣)を取らないようにすること、そのためには、良く説明し、動機付け、人の支援が必要です。

その時、その症状をなくしてしまおうとするのではなく、症状があっても大丈夫、であると思わせること、症状が出た時の対処方法を学ぶことに導くことが大切です。

統合失調症の2次症状

自分を守る対処方法が習慣化したものと考えられます。たばこ、昼夜逆転・ひきこもり、家庭内の軋轢・暴力、金銭、薬への依存、水中毒などがよくみられます。

2次症状への対処

- 一般的な「いい状態」の実現が問題行動を減らすと考えます。
- 押し付けでなく本人と2人3脚で行います。
- 信頼関係を損なわない範囲で働きかけを行います。

障害を持って生きていくうえで大切なこと

ありのままの自分(カムアウト)で生きること、ストレスの少ない生活をする。できることを自分でやり、できないことを人に頼むという自立。助けを求めることが出来る人、自分でできる気分転換を工夫する一などです。

今月の予定

<5月20日>アドボケイト会総会